

平成29年度 まちづくり推進部 方針書

まちづくり推進部長 高橋 征徳

1. 部の使命（役割）

地域づくり事業と生涯学習やスポーツ振興事業が連動したまちづくり施策を実施して、市民が主役となる地域づくりの推進役になります。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- (1) 横手市民の一体感を醸成して、地域間の垣根を取り払うことが課題です。
- (2) 市民の意見を聞きながら、市の施策を推進する必要があります。
- (3) 誤った事務手続きを改善し、監査の指摘を受けないようにする必要があります。

3. 平成29年度の『スローガン』

市民と手をたずさえて、いろいろな声を反映します。

4. 年度目標となる方針（目標）

- (1) 市民が自主的な活動を推進する、新たな組織づくりを進めます。
- (2) 市民の理解を得て、FM計画の推進を図ります。

5. 重点取組項目

(1)	項目	市民が主役となる地域づくりを支援
	取組内容	① 地域の特性を活かした、地域住民が自ら行う地域づくり活動を支援します。 ② 地域づくり協議会と公民館を改め、地区会議と地区交流センター等の新たな地域づくり組織のあり方を明らかにします。
(2)	項目	持続可能な市民サービスを提供する公共施設の整備
	取組内容	① 各地域に存在する温泉施設、地域局庁舎、体育施設やコミュニティ施設等について、持続可能な行政サービスを提供する公共施設となるよう、市民との情報共有を図りながら、FM計画に基づいた整備を促進します。
(3)	項目	市民が元気になるまちづくりの実践
	取組内容	① 増田まんが美術館のこれからの経営方針を決定するとともに、施設整備事業を推進します。 ② 東京オリンピック・パラリンピックに向け、地域を活性化するホストタウンを目指します。 ③ 歴史と文化をまちづくりに活用する「歴史的風致維持向上計画」の策定を推進します。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

1. 市民が主役となる地域づくりを支援
地域づくり協議会の協議を踏まえ、地域づくりの組織体制や支援制度等について原案を作成
12の地区交流センターと事業の進捗状況や課題等について、話し合いを実施
2. 持続可能な市民サービスを提供する公共施設の整備
平鹿多目的総合施設（平鹿庁舎、消防平鹿分署、平鹿図書館）の建設推進
3. 市民が元気なるまちづくりの実践
7月の市長訪問により、にインドネシアバトミントン協会とスポーツ交流に関する基本協定を締結
3省（国交省、農水省、文化庁）協議により、歴史的風致候補地を確認

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

1. 市民が主役となる地域づくりを支援
新たな地域づくりに関する市の方針を決定し、市議会や地域づくり協議会と協議を進め、来年度予算に反映します。
2. 持続可能な市民サービスを提供する公共施設の整備
十文字庁舎、雄物川庁舎の整備方針を明らかにします。
民間譲渡が実現できなかった温泉施設について、今後の施設サービス内容を明確にします。
老朽化した体育施設（プール、スキー場）について、FM計画に沿った整備方針を定めます。
3. 市民が元気なるまちづくりの実践
ホスタウンの実現のため、インドネシアと青少年スポーツ交流を実施します。
歴史的風致維持向上計画策定のため、法定協議会を設置して協議を進めます。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

1. 市民が主役となるちいづくりを支援する
市議会他地域づくり協議会との協議を進めて、平成30年度からの「新たな地域づくりの方向性」について、内容を決定することができました。地域運営組織を中心とした新たな事業展開を支援してまいります。
2. 持続可能な市民サービスを提供する公共施設の整備
平鹿地域局と消防平鹿分署、平鹿図書館からなる平鹿多目的総合施設が、市民サービスを開始しました。
十文字地域と雄物川地域の庁舎建設方針を決定し、平成32年度の供用開始を目指して、平成30年度予算案に設計費等を計上しました。
3. 市民が元気なるまちづくりの実践
インドネシアバトミントンチームの東京オリンピック事前合宿は実現できませんでしたが、協定に基づく青少年スポーツ交流を継続する方針を決定しました。
平成31年4月のオープンを目指す「増田まんが美術館」について、「マンガ活用構想」を策定しました。
歴史文化をまちづくりに活かそうとする「歴史的風致維持向上計画」の策定に向け、法定協議会を設置して協議を推進することができました。